

**内発型地域政策と AI 活用**

持続的地域政策に求められる課題として、内発型の充実がある。内発型とは、グローバル化とローカル化の混成語であるグローカル化（glocalization）とも表現され、地球規模の視野を持ちつつ地方にある資源を生かし、地域の所得循環を少しでも厚くする視点を重視する。ひとつの地方自治体の視点からだけでなく、地球や国を創造する視点からの地域資源の活用が自治体経営でも重要となっている。また、リージョナル化の進展により地方の異なる資源による地域間の競争が展開されると同時に、相互に異なる資源で結びつくことでリスクに対して補完し合う持続性に向けた地域間のセーフティネットが形成される。国が担保する画一的なセーフティネットに加え、地域間、官民間、さらにはコミュニティにおける多層型セーフティネットの形成を可能にしている。この形成には、事業単位だけでなく施策単位に視野の中心をおいた自治体経営の展開が不可欠なる。

内発型自治体経営の実現には、地域の細かい情報、すなわちメッシュ情報の集積と活用を地方自治体も重視するネットワークづくりが必要となる。国などの制度や政策を組み合わせた地域政策だけでなく、自ら政策を生み出すためには、地域の人間行動に加えそれが形成する地域のメッシュ情報の蓄積と活用が大前提となる。

地域政策は、地域の人間行動に働きかけ、それをより良い方向に変化させていくことを核とする。なぜ、地域の商店街は衰退化するのか。大規模店舗の進出だけに原因があるのではなく、大規模店舗に買い物などに向かう人間行動を認識しそれを変える、あるいは変化に対応する手段とその手段の実現化ができない点にも原因がある。この原因を明確にするには、地域の経済社会活動に関する細かい情報の集積が前提であり、地域政策の土台ともなる。

こうした点は、経済産業活動だけでなく、公立病院の経営をはじめとして地方財政に大きな影響を与える医療に関する計画策定とその実施など、他の領域においても同様である。自治体経営において地域医療の実情を把握することは、一定の公的統計を除いて難しい状況にある。実情の把握の前提として、「いかなる範囲と質」で情報を把握し観察するのかを明確にする必要があることによる。たとえば、病院への入院患者はもちろんのこと、入院から外来へと治療を移行した退院患者のデータの把握も地域医療には重要となる。なぜならば、医療や介護の提供を施設から地域、コミュニティ、家族へと役割を移行させる流れの中では、外来へと治療を移行させた患者の医療・介護などの質など、体系的かつ継続的に着目し、情報として集積・共有することが大前提となるからである。

また、地域の資源を発掘し地域の特性として、国内はもちろんアジアなどグローバルに発信し、観光、特産品の販売などの拡大に結びつけていくことは、地域の活力を生み出す取組みとして重要である。その際に留意すべきなのは、受け手である内外の消費者のニーズを把握する市場調査を踏まえたマネジメントの展開である。どんなに優れた地域資源でも、消費者のニーズを認識した発信とマネジメントを展開しなければ、単なる押し売り型戦術となり、地域資源が活かされない結果となる。

観光・小売等は、一般的なサービス業と区分される。しかし、内発型の地域戦略では、観光や小売等の活動を通じて集積した情報を活用し、新たな仕組みや財・サービスを生み出す製造業として認識し、そのための創造性や開発力を持つ必要がある。自動車開発、鉄道業なども AI を活用しつつ、新たな課題や戦略を展開している。AI は、極めて重要な社会インフラとなりつつある。そのインフラを有効に活用していくためには、質の良いメッシュ情報をどれだけ蓄積し、どれだけ活用可能な仕組みとしているかが大きな分岐点となる。地方自治体もサービス業であると同時に、反面では地域政策や地域戦略の製造業であることを改めて認識し、自らメッシュ情報の蓄積・活用と AI の連携を目指すべきである。